

サイトの内容

音声で読み上げ

エーアイなど 障害者らに配慮
ソフト開発

音声合成技術のエーアイ(東京・港、吉田大介社長)はインターネットのホームページの内容を音声で読み上げるソフトを開発した。企業のサイトなどに組み込めば、閲覧者はサイト画面を操作するだけで機能を利用できる。視力に障害のある人や老眼の高齢者に、ネット利用を促したいサイト運営者の需要を見込む。

新ソフトは「みんなのとくくん」II写真IIで、エーアイと、サイト制作などを手掛ける特定非常



始める。企業などのサイトの画面上に「音声操作パネル」を表示。パネルの「再生」ボタンを押すと、サイトの指定された文字部分を音声で読み上げる。読み上げる速さや音量も画面上で調節できる。エーアイ・コラボは身体に

障害を持つ人に働く場を提供する目的で設立された。実際に障害を持つ人たちがサイト制作などに従事。エーアイが持つ文章読み上げソフトをもとに、エーアイ・コラボの従業員が使いやすい仕様を考え商品化した。価格は導入時の費用が八十万円で、別に年二十四万円の利用料がかかる。月ごとに課金するASP(ネット経由のソフト期間貸し)方式でも提供する予定。公共性の高い電力やガス会社、自治体、病院などに採用を働きかけ、当初年二千万円の売り上げを目指す。

高齢・障害者向けのHP

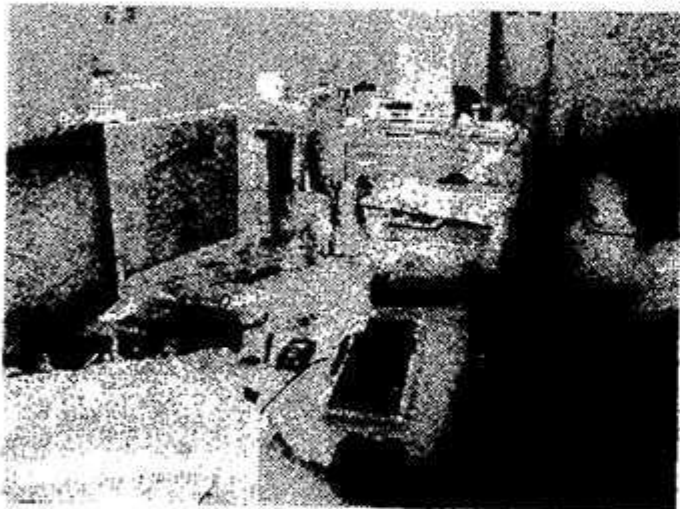
作成支援ソフト拡販

【神戸】アイ・コラボレーション神戸(神戸市中央区、岡本幸助理事長、078・302・9811)は、高齢者や障害者でも使いやすいホームページ(HP)づくりのためのソフトとサービスを拡販する。HPの読み上げソ

フトは7月をめどに、京都リサーチパーク(京都市下京区)に販売を委託。また、HPの診断改善サービスは10月をめどに関西のIT企業に販売を委託する。09年3月期に両商品合計で2350万円の売り上げを目指す。

アイ・コラボ神戸

読み上げソフトはすでに大阪ガスが試験導入した。診断改善サービスは障害者や高齢者がモニターとなり、HPの使いやすさを診断。プログラムの変更など改善指導や作業を行う。アイ・コラボは作業所からスタートした民間非営利団体(NPO)で、身体障害者などが中心となってシステム開発を手掛けている。



アイ・コラボ神戸

使い易い読み上げ型HP

視覚障害者用 企業向け提案強化

【神戸】アイ・コラボレーション神戸(神戸市中央区、篠原幸夫所長、078・302・9811)

1)は、視覚障害者が使い易い音声読み上げ型ホームページ(HP)の構築提案を強化する。既に神戸市中央区役所や神戸市のHPの一部を作成。今後は、企業の社会的責任(CSR)活動

に力を入れる企業への提案を目指す。現在使われているHPは音声ソフトで読み上げたときに、ほとんどのものが内容を理解しにくいと指摘されている。そこでアイ・コラボではウェブに関する日本工業規格(JIS)基準をベースにプログラムを工夫した音声読み上げ型HPを作成することにした。それにより、視覚障害者にも利用しやすいHPが提案できるという。

JIS基準をベースに音声読み上げ型HPのプログラムを工夫した

▲…………… JIS基準をベースに音声読み上げ型HPのプログラムを工夫した

① 「みんなのとくくん」その他の新聞掲載

- 2009年1月9日 毎日新聞
- 2009年2月号 広報KOBÉ
- 2009年2月13日 読売新聞
- 2009年春号 KOBÉ E-TIPS
- 2009年3月号 京都インターネット新聞
- 2009年7月23日 神戸新聞(ユニバーサル社会づくり賞 兵庫県知事賞)

アイ・コラボは神戸市から認可を受け、障害者がIT関連分野の制作を行う共同作業所。篠原所長は「すべての人が使いやすいHPのバリアフリー化をすすめていきたい」としている。

※2008年3月より、障害者福祉サービス事業所の開発ソフトは「優先発注」が推奨されています。(厚生労働省「地方自治法指令等の改正に伴う留意事項について」)